

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年2月7日 NO.83 (183)



ノスリ

オー君 「うわあー！とてもこわそうな鳥だね。」

花ちゃん 「それはそうよ。この鳥はノスリといってね、ワシやタカなどの仲間なのよ。
小さな動物や小鳥などをおそって食べてしまうの。」

オー君 「へえー。そうなんだ。とても強そうだね。ワシやタカって、他にどんな種類がいるのかな。」

花ちゃん 「そうね、いろいろといるけど、ちょっと山の方へ行けば、オオタカとかもいるし、トンビなどもその仲間だと思うわ。」

モンタ博士 「お！トンビ、つまり正しくは『トビ』というけど、モンタ博士にもお話しさせてよ。『悲劇…モンタ博士やきそばパンゲットされ事件』というのがあるんだ。」

花ちゃん 「『やきそばパンゲットされ事件』？何ですかそれは？」

モンタ博士 「聞くも涙・語るも涙のお話だよ。」

オー君 「へえー。どんなことがあったのですか。」

モンタ博士「^{いま}今から10^{すうねんまえ}数年前のある日、^{はかせ}モンタ博士と^{むすめ}小学校2年生の娘で^{みうらはんとう}三浦半島に行
って、^{ひる}お昼にしようと、^たやきそばパンを^た食べようとした^{とき}時に、^{とつぜん}突然トビにパ
ン^もを持っていかれたんだ。^{いっしゆんなに}一瞬何が^お起こったかわからなかったけど、^{あし}足でパ
ン^もを持ったトビが^{とお}遠くへ^と飛び去っていく^{とき}時には、^{ほんとう}本当に^{なみだ}涙が^で出そうだったね。」

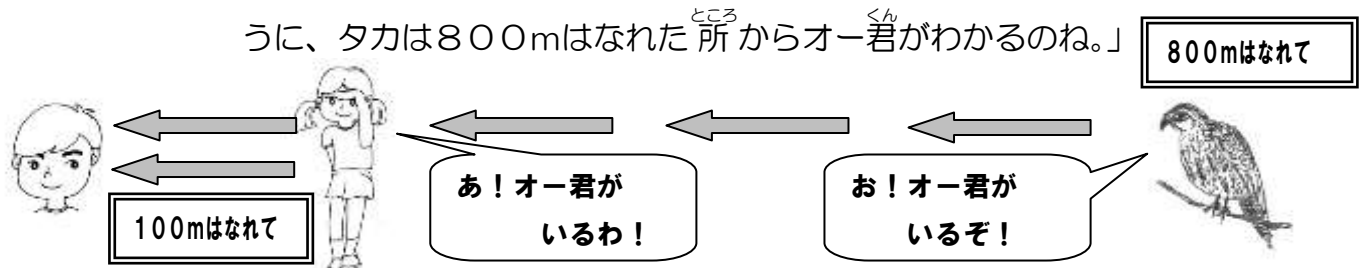
オー君 「本当のお話ですか。」

モンタ博士「もちろんさ。^{はかせ}モンタ博士だけではなく、^{ほか}他にも^{ひがい}被害にあつた^{ひと}人もいるそうだ。
それから^{はかせ}モンタ博士は、とても^{くや}悔しいから、どうして^{たか}あんな高い^{ところ}所にいるト
ビが^ふやきそばパンが^{しぎ}わかるのか^{おも}不思議に^{おも}思ってね、いろいろと^{しら}調べたんだ。」

花ちゃん 「それで、どんなことがわかったのですか。」

モンタ博士「^{とり}鳥という^い生き物は、^めめちゃくちゃ^め目がいいということさ。^{たと}例えば、^{たか}タカなど
は^{ひと}人の^{しりよく}視力の^{ばい}8倍もあるそうだ。つまり、^{ひと}人が^{さき}100m^{さき}先のものを^{にんしき}認識でき
る^{とき}時、^{たか}タカは^{さき}800m^{さき}先から^{おな}同じものが^{にんしき}認識できるということさ。」

花ちゃん 「つまり、^{した}下の^え絵のように、^{わたし}私は^{たか}100m^{たか}はなれた^{ところ}所から^{くん}オー君がわかるよ
うに、^{たか}タカは^{たか}800m^{たか}はなれた^{ところ}所から^{くん}オー君がわかるのね。」



オー君 「なーるほど。だから、^{ちじょう}地上の^{ちい}小さな^{どうぶつ}動物や、^{えだ}枝に^と止まっている^{ことり}小鳥、それか
ら、^{はかせ}モンタ博士の^た食べようとした『^{みわ}やきそばパン』も^{みわ}見分けられるというわ
けですね。」

鳥の視覚

鳥は視覚の動物。高速で空を飛ぶためには、優れた視力がなければ生きていけません。例えば、人は1分間に80mで歩き、1km進むのに12分30秒かかります。一方、鳥の平均速度を60kmとすると、1分間に1000mのスピードで飛ぶことになります。80m進むのに4.8秒しかかかりません。わずかな時間に前方の物体に目を留め、安全か危険かを判断し、行動しなければなりません。

鳥は大きな目玉（優れたズームレンズ）、優れた視力、俊敏な反射機能を持ち合わせています。また、眼球が大きいだけでなく、網膜の最も感じやすい部分にある細胞が、単位面積あたり、人が20万個あるのに対し、鳥は120万個もあるそうです。そんな訳で、人の視力は鳥にはかなうはずがありません。さらに、フクロウのような夜行性の鳥は、ほんのわずかに星明かり程度の明るさでも、鋭敏に感じる特別に発達した細胞組織をたくさん持ち、これでとらえた映像を楕状体というもので増幅するそうです。